

新年のご挨拶 代表 森屋 治三

回 会 報

165号

新日本美術協会

事務局

横浜市港南区港南台

1-39-5

鈴木忠義方

TEL045-832-0504

編集委員

石原 修

篠 光定

早田美智子

小高峯夫

原稿常時募集

次号平成31年5月予定



森屋 治三

会員の皆様 あけましておめでとございませう。輝かしい新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。旧年中は会の諸行事への積極的なご参加とご協力をいただき心から感謝申し上げます。

さて、当会は一九七八年「自由、協調、公平を理念とし、造形芸術の探求・研磨を通じて新人の育成と美術文化発展に寄与すること」を目的として故中尾不二夫のもとに美術団体を立ち上げたのがはじまりです。

いろいろ順調に成長し、現在、会員総数二五〇名、美術団体の中堅的位置を占めるに至りました。今後、更なる発展を目指していくには、現行活動の

在り方について、常に反省、改善していくことが不可欠であります。

いま、社会では人工知能(AI)や交流サイト(SNS)などで価値観が多様化し芸術文化分野でも意識構造が変わってきております。この影響は少なからず当会にも及んでいます。そのうえ、社会現象の一つである少子高齢化は、在籍会員の高齢化と応募者の減少という将来の展望を揺るがしかねない問題として顕在化しております。

当会では、以上の事柄を踏まえ時代に即した運営を行うため三年前から事務局内に事業部、渉外部を設けるなど運営機能の強化を図ってきました。

その一例として、昨年の四二回展では、小品部門の設立、趣向を凝らしたイベント、ギャラリートークの充実など行い、従来の発表型展覧会から、来場的一般鑑賞者も楽しめる、

作家と一体となった展覧会を企画実施しました。

また、ホームページ、スマホ対応など電子媒体部門を強化した結果、応募要項の請求、問い合わせ及び閲覧数が増し、活動のアピール効果が出てきたと実感しています。

当会のポリシーは「具象・抽象を問わず各自の自由な発想のもとに制作すること」です。

新日美展出品応募要項には「しがらみのない体質」「あなたの自由な作品待ってます」「このようなフリースを記載しております」。

新しい体制を重視した運営、および各個人の制作では素材や形にこだわらない自由な表現をどこまでも追及した作品を期待する。まさに、このことよって未来の展望が開けていくものと、年初にあたり、思いを新たにするものであります。

会員皆さんのご健闘を祈念し新年の挨拶とします。



私の一枚
張 京浩

私が事務局長を拝命したときは、高齢化による退会者が多く会員は二〇九名でした。会員数減少対策が急務で、手がける最初の仕事となりました。翌年総会で「永年会員」制度新設が承認され、五年以上、会に現役在籍貢献した会員を永年会員として、会としては永く敬意を表すことが出来た訳です。

本展は回を増すことに盛会で、この二年間の入会者数は五〇名を超え、直近二月末では二五〇名まで会員数が回復しました。また魅力ある会づくりの一つとして目指した衆参両院議長賞の獲得が実現。文部科学大臣賞と同等以上の賞を得たことは会の魅力を一層増したと考えております。

また今年には五年毎の東京都美術館使用申請の年で、この申請資料作りが、事務局長としては間違いなく今年の大仕事となると考えます。各委員、各支部長のご協力を頂きながら作成していくこととなりますが、その折はどうぞよろしくお願いたします。



鈴木 忠義

事務局長の三年半と今年
事務局長 鈴木 忠義